



(左) 江戸時代の露天掘り跡(史跡生野銀山・慶寿ひ) / (右) 生野銀山周辺の間歩(坑道)などを記した江戸時代の古地図

第一章

EPI
SODE

但馬はかねほる里だった。

日本を代表する鉱山王国

大同2年(807)に開坑したといわれ、1200年の歴史を誇る日本有数の銀山である生野銀山。産出した銅が奈良の大仏造(752年建立)にも使われたとされる明延銀山など、兵庫県北部の但馬地域には、日本の歴史上において重要な鉱山が点在しています。

これらの鉱山は時の権力者の財力となり、江戸時代には佐渡金山(新潟県)、石見銀山(島根県)とともに幕府の財政を支えました。江戸幕府は生野、佐渡、石見に奉行所を置いて、鉱山開発に力を入れました。

『桜もちるに嘆き…』ここに但馬の国かねほる里の辺に…。これは江戸時代の浮世草子作者・井原西鶴の作品である『好色二代男』の冒頭の二節です。「かねほる里」とは生野銀山のことであり、主人公の夢介は生野の富豪として描かれています。

また、当時、金(小判)は主に日本で使用され、銀(丁銀)は西日本で使われていました。これは東の佐渡金山と西の生野、石見銀山の影響でした。江戸時代前半、日本で産出された銀は世界の3分の1を占めたといわれています。

天下人の宝物

但馬の金と銀



生野で最高位の坑道に、生野奉行所から「御所務山」の名称が与えられ、これを祝して「御見石」の山車が引き回されるようになった。

■但馬守護・山名氏による支配

生野に伝わる『銀山旧記』によると、天文11年(1542)に銀鉱脈を発見したことを契機に、但馬守護・山名祐豊が、当時の最新技術を用いて本格的に採掘を始めたことと記されています。

それに先立つ天文2年には、石見銀山に銀を取り出す「灰吹法」が伝えられています。

弘治2年(1556)には竹田城主・太田垣朝延が、山名祐豊から生野銀山の支配権を奪い取り、その後、山名氏と太田垣氏は銀山の支配権を巡って度々対立しました。

■織田信長

織田信長は永禄11年(1568)、京都で将軍に足利義昭を擁立。さらに翌年には、木下(豊臣)秀吉に

但馬の主要な金属鉱山マップ (昭和時代)



兵庫県北部・但馬地域にはこの他にも137以上の鉱山が確認されています。

主要産出鉱物

- 自然金 ● 自然銀 ● 自然銅 ● 自然砒(び)
- ▲ 輝銀鉱 ▲ 輝安鉱 ▲ 濃紅銀鉱 ▲ 黄銅鉱 ▲ 方鉛鉱
- 閃亜鉛鉱 ■ 閃マンガン鉱
- ◆ 錫石 ◆ 滑石 ◆ 方解石 ◆ 中沸石

COLUMN

養父の特産 朝倉山椒

豊臣秀吉から任命された生野鉱山の奉行・伊藤石見守は、生野にある昔の侍町の跡に山椒を植えました。その後、山椒の木は大きくなりました。慶長16年(1611)、生野奉行の間宮直元は、この山椒の木から実をとって、徳川家康に献上しました。これが江戸幕府に「朝倉山椒」を献上した最も古い事例です。

江戸時代、朝倉山椒は天下の名産品となりました。朝倉山椒は、但馬国養父郡朝倉村で栽培が始まりました。伊藤と間宮の2人の生野奉行も山椒が好物であったのでしょうか。現在も但馬の特産品として栽培されています。



写真提供: 吉田利栄

天空の城、竹田城跡。戦国時代は竹田城主が生野銀山を管轄した。

命じて生野銀山を制圧し、直接支配しました。信長が安土城を築くのは、その7年後の天正4年のことです。天下取りを目指す信長にとって、安土城を築くよりも戦略的に重要な施設が生野銀山だったのです。

豊臣秀吉

慶長3年(1598)、豊臣秀吉が全国の金山や銀山から納めさせた運上(営業税)の記録があります。銀山では但馬国が6万2千匁で、全国第1位、全国の83%を占めています。石見国は9千匁で、但馬国に次いで第2位です。

また金山では、越後国が全国第

1位、佐渡国が第2位、但馬国は第6位です。主に銀は生野銀山、金は中瀬金山です。但馬の鉱山は、まさに豊臣秀吉の御金蔵だったのです。

徳川家康

慶長5年(1600)、関ヶ原の合戦に勝利した徳川家康は、但馬の鉱山を直轄地としました。生野奉行の間宮直元に命じて、生野の銀山開発に力を入れました。白口の榎木・若林などを開発し、奥銀谷が一気に繁栄しました。慶長14年、徳川家康は生野奉行に命じて、佐渡金山の開発のために、鉱山担当の家臣3名と中瀬金山の鉱山技師3名を1年間、佐渡に派遣しました。

また、元和3年(1617)には、佐渡金山の鉱山技師、味方但馬が中瀬金山にきました。佐渡と但馬の交流によって鉱山が栄えました。

日本は金銀の国

永禄11年(1568)、ポルトガル人のドラードがインドで作った「日本図」があります。この日本地図の石見国には「銀鉱山群王国」、但馬国には「銀金山群王国」と書いてあります。ヨーロッパから見ると、日本は金銀にあふれた黄金の国でした。

近代化日本の幕開け

明治政府は近代化を先導する模範鉱山として、生野鉱山を日本初の官営鉱山としました。フランスから24人の鉱山技師(御雇外国人)を迎えて、西洋の鉱山技術を導入した大規模な近代化鉱山を建設しました。

明治5年(1872)には神子畑、明延、中瀬の鉱山も官営となりました。そして、明治29年には三菱の経営に移りました。



金



銀



銅



錫



アンチモン

養父市・朝来市でとれていた代表的な鉱石

代表的な鉱石

今から約1500年前の古墳時代から日本では金・銀・銅が使われています。かつて但馬地方には130を超える鉱山があり、金・銀・銅だけでなく60種類以上の金属を掘り出していました。私たちの生活は多くの金属によって支えられています。

HISTORY TIMELINE

奈良
和銅6年(713) 生野は播磨の国「埴岡の里」に属し、応神天皇により生野と名付けられる。(播磨風土記)

平安
天平17年(745)～東大寺の大仏の鑄造にも
天平勝宝4年(752) 明延の銅が献上されたと伝わる。
大同2年(807) 生野から銀が発見されたと伝わる。

室町
応永30年(1423) 但馬守護・山名時熙が生野城(山城)を築く。
天文11年(1542) 但馬守護・山名祐豊が生野鉱山で本格的に銀の採掘を始める。(銀山旧記)

戦国
永禄12年(1569) 織田信長の命を受け、木下秀吉(豊臣秀吉)が山名祐豊を攻め、生野銀山は信長の支配となる。
元亀元年(1570) 信長が生野に代官所を置き、銀山を支配を開始する。
天正10年(1582) 「本能寺の変」。生野銀山は豊臣秀吉の支配となる。
天正元年(1573) 八木川で砂金が発見され、中瀬鉱山の開発が始まる。
慶長5年(1600) 「関ヶ原の戦い」。生野銀山は徳川幕府の支配となる。
慶長18年(1613) 生野奉行の間宮直元が大坂冬の陣に生野・明延・中瀬の山師を連れて参戦。

江戸
享保元年(1716) 生野奉行所が代官所になり、以降28代の代官が着任する。
天保12年(1841) 代官所内に学問所(尊信堂、後の麗澤館)が開かれる。
文久3年(1863) 生野義挙(生野の変)。
明治元年(1868) 生野鉱山が明治政府の官営鉱山となる。
私人技師コワニェラ(24人)により鉱山近代化を図る。
5年(1872) 神子畑、明延、中瀬の鉱山が官営となる。
9年(1876) 生野鉱山で新工場落成式(工部卿・伊藤博文が出席)。
生野～姫路市飾磨港間を結ぶ。
生野鉱山寮馬車道(銀の馬車道) 開通。
11年(1878) 神子畑で銀脈を発見。
18年(1885) 生野～神子畑間の鉱石運搬専用道路開通。(神子畑・羽瀧鉄橋設置)

明治
22年(1889) 佐渡鉱山・生野鉱山、大蔵省から宮内省御料局へ所管替え。
24年(1891) 生野～神子畑間の馬車道を馬車鉄道(鉱山軌道)に改修。
28年(1895) 播但鉄道として飾磨港～生野間49kmが開通。
29年(1896) 宮内省による官営を廃止。
佐渡鉱山・生野鉱山を三菱合資会社に払い下げ。
42年(1909) 明延で錫脈を発見、日本一の錫鉱山へ。

和銅3年
藤原京から
平城京に遷都

明治9年
東海道線
大阪～京都間
開通開業

大正
大正2年(1909) 生野鉱山に錫製錬所を開設。
6年(1917) 神子畑鉱山を閉山。
明延鉱山の鉱石を生野に送る中継地となる。
8年(1919) 明延鉱山の選鉱場を神子畑に建設。
後に東洋一の選鉱場といわれる。
11年(1922) 生野の銅製錬廃止により、明延鉱山の銅を飾磨港経由で直島製錬所(香川県)に輸送。

昭和
昭和4年(1929) 明延～神子畑間(約6km)をつなぐ「明神電車軌道」が開通。
10年(1935) 中瀬鉱山が日本精鉱株式会社の経営となり、金とアンチモンを産出する。
25年(1950) 明延鉱山で鉛・亜鉛を産出、神子畑選鉱場で選鉱処理。
27年(1952) 明神電車で乗車賃1円の客車運行。「一元電車」を開始。
トラック輸送への転換により
神子畑～新井間の専用軌道廃止。
44年(1969) 含有量減少のため中瀬鉱山の採鉱部門廃止(アンチモンの製錬は継続)。
48年(1973) 鉱量枯渇等により生野鉱山の採鉱部門廃止(明延の錫製錬は継続)。
49年(1974) 史跡生野銀山(シルバー生野) オープン。
60年(1985) 「明神電車軌道」の客車運行廃止。
62年(1987) 明延鉱山廃止、神子畑選鉱場閉鎖、明神電車廃止。

平成
平成元年(1989) 明延鉱山探検坑道(旧世谷通洞坑) オープン。
16年(2004) 「鉱石の道」産業遺産活用調査報告で3鉱山エリアを「鉱石の道」と命名。
17年(2005) 「鉱石の道」観光産業活性化事業計画報告書を策定。
19年(2007) 経済産業省の近代化産業遺産群に生野・明延・神子畑の鉱山関連遺産(通称: 鉱石の道) が認定される。
産業遺産を活用した地域活性化を推進する。「鉱石の道推進協議会」設立。
22年(2010) 「一元電車明延線」完成。
体験乗車会として定期運行始まる。
26年(2014) 「鉱石の道」に中瀬鉱山が加わる。
生野鉱山及び鉱山町の文化的景観が重要文化的景観に選定される。
29年(2017) 「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道～資源大国日本の記憶をたどる73kmの轍～」が日本遺産に認定。
令和2年(2020) 明神電車車両8両が兵庫県指定文化財となる。

大正3年
第一次
世界大戦
勃発

昭和39年
東京
オリンピック
開催

平成7年
阪神・淡路
大震災 発生

日本の主な金属鉱山

石見銀山は平成19年(2007)に世界遺産になり、**佐渡金山**は世界遺産へ登録の準備中です。また、日本には世界的にも貴重な**鉱山遺産**として**別子銅山**、**吉岡銅山**、**生野銀山**(**神子畑・明延**)などがあります。日本を代表する**金・銀・銅**などを産出した**鉱山**は、多くの人間が全国的に交流し、**鉱山町**が栄えました。今再び、**鉱山遺産**を生かした観光交流が重要となっています。

■佐渡金山(新潟県)

佐渡金山は、**相川金銀山**・**鶴子銀山**・**西三川砂金山**・**新穂銀山**などの**鉱山**を示す全体の名称です。**江戸時代**、**江戸幕府**の役人であった**大久保長安**が**石見銀山**と**佐渡金山**の奉行となり、開発に力を入れました。

「**佐渡の金**、**生野の銀**」といわれたように、**佐渡金山**と**生野銀山**は日本を二分する**大鉱山**です。明治政府や**三菱**によって**近代鉱山**へと整備されました。現在、「**ゴールデン佐渡**」では**見学坑道**や**鉱山資料館**を一般公開しています。今も**大立堅坑**、**鉱山車両**などが保存されています。

■石見銀山(島根県)

平成19年に世界遺産に登録された**石見銀山**。天文2年(1533)、**博多**の**神谷寿禎**が、**石見銀山**に初めて「**灰吹法**」という**製錬技術**を導入しました。当時の**最新技術**である**灰吹法**は、**石見**から**生野**や**佐渡**に伝えられ、**全国**に広まりました。

大森には**代官所跡**や**武家屋敷**、**郷宿**などが残り、**国の重要伝統的建造物群保存地区**になっています。また、**近代化遺産**である**清水谷製錬所跡**や**龍源寺間歩**が公開されています。**ガイドンス施設**として**石見銀山世界遺産センター**があります。

■吉岡銅山(岡山県)

吉岡銅山は、「**吹屋銅山**」とも呼ばれています。**江戸時代**、**鉱山**の捨石から**ベンガラ**を作る**技術**が発見されました。**吹屋**は、**銅山**と**ベンガラ**の町として栄えました。**国の重要伝統的建造物群保存地区**となり、**大規模な日本建築**があります。

明治6年(1873)、**三菱**が**鉱山経営**を始め、**吉岡銅山**は**三菱鉱山経営**の発祥地とされています。今は**銅**を採掘した**笹畝坑道**が公開されています。山神社には**三菱創始者・岩崎弥太郎**が寄進した**玉垣**があります。

■別子銅山(愛媛県)

別子銅山は**日本最大の銅山**で、住友による**鉱山経営の本拠地**です。明治初期、**別子銅山**の**総支配人**である**広瀬宰平**は、**生野鉱山**で**御雇外国人コワネ**に、**黒色火薬**を利用した**近代的採鉱法**を教わりました。

鉱山本部の跡地は「**マイントピア別子**」となり、**鉱山資料館**、**レストラン**、**鉱山鉄道**、**観光坑道**などがあります。また付近には、**別子銅山記念館**・**大山祇神社**もあります。

日本の主要な金属鉱山マップ



佐渡金山(相川北沢選鉱場跡)



直島製錬所



石見銀山(清水谷製錬所跡)



吉岡銅山(吹屋の町並み)

別子銅山(第四通洞)

